

石川・戸水大西遺跡

とみずおおにし

1 所在地 石川県金沢市戸水町・大友町・御供田町

2 調査期間 一九九六年(平8)七月～一〇月
二一九九七年一月～二月

3 発掘機関 金沢市教育委員会

4 調査担当者 出越茂和・前田雪恵・谷口明伸

5 遺跡の種類 集落もしくは荘園関連施設跡

6 遺跡の年代 九世紀～一一世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は金沢市の北方、浅野川と大野川に挟まれた海に近い低平な

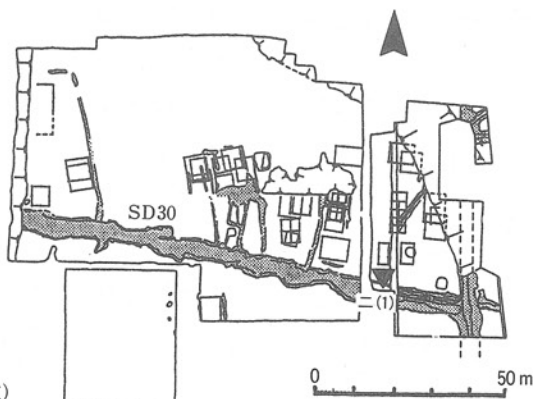
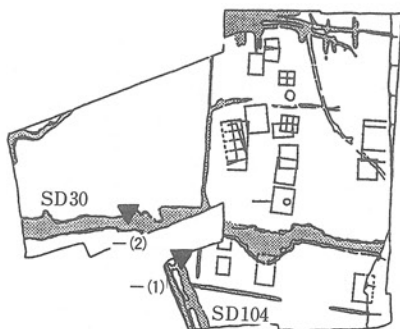


(金沢)

沖積地にある。以前は一面の水田であったが、現在は区画整理により、市街地へ転換しつつある地域である。付近は戸水C遺跡(官衙関連施設。漆紙文書出土)や西念・南新保遺跡、畝田遺跡など同時代の遺跡が集中する。大友町には大伴家持

の荘園であったという伝承もある。

戸水大西遺跡は一九九一年からの調査でほぼ全域を発掘し、一九九九年に報告書を刊行する予定である。多くの掘立柱建物、溝、井戸などを検出したが、墨書土器や木簡などの文字資料を埋蔵しているのはSD三〇と名付けた溝である。幅四m深さ〇・五～一mを測り、遺跡の南端を東西に流れており、所々に直交する細い支流が派生する。全体で二三〇mにわたって検出しているが、第三次調査では三四m分、第四次調査では五m分を検出した。SD三〇からは、



戸水大西遺跡遺構配置図 (▼は木簡出土地点)

さまざまな土器、木器とともに、墨書土器、斎串・形代などの祭祀具が出土している（本誌第一六号）。今回は、第三次調査で一点（一（2）、第四次調査で一点（二（1））の木簡が、いずれも溝の下層から出土した。

一方(1)は、SD一〇四とした幅2mを測るが浅い溝の、底につき刺さった状態で出土した。SD一〇四は方向からみれば前述したSD三〇の支流である可能性もあるが、接点があるとすれば調査区外にあたるので断言はできない。

8 木簡の釈文・内容

一 第三次調査

SD-104

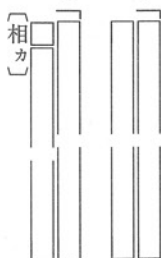
(1)

	[謹
			解
			殿
			門
			御
			稻力
]

(162) $\times (12) \times 10$ 081

SDIO

(2)


$$(237) \times (44) \times 3 \quad 081$$

(1)は右半分と下部を割りとった、柱状をしている。上部に刃を入

れて折ったらしい痕が見られる。墨痕は明瞭である。

(2)は下部 左右両側面を欠損している。表裏に二行ずつ墨書したと思われるが、板の表面が剝離しているためほとんど判読できない。

二 第四次調査

SDIO

(1)

	〔永力〕

(213) $\times 27 \times 3$ 081

(1)は上下を欠損し、上部は炭化している。墨痕が薄く、判読できない。
(前田雪恵)

(前田雪恵)

